

伊江親方日々記

目次

発刊のことば

凡例

解説

一 乾隆四拾九年并五拾貳年

御三代伊江親方御用日々記

3

二 嘉慶八年より拾貳年迄御進物留

御三代伊江親方日々記

71

三 嘉慶拾三年より拾四年迄

御三代伊江親方日々記

143

嫡孫蒲戸勤方ニ付諸事日記

189

四 嘉慶拾五年より拾六年迄

御三代伊江親方日々記

.....

235

五 嘉慶拾八年

御三代伊江親方日々記

.....

337

六 嘉慶拾九年より式拾壹年迄

御三代伊江親方日々記

.....

421

七 嘉慶式拾年より御病中日々記并

乾隆六拾年御四代伊江親方

御先室御病中御看病日記

.....

497

凡例

一、本書は、沖縄県立図書館蔵の「御三代伊江親方日々記」をはじめとする七冊の日記を、影印・翻刻したものである。

二、本書は、日記の一冊目から最後までを、日記の順にしたがつて、各ページの上段は影印、下段は翻刻の形で掲載した。

三、影印は、沖縄県立図書館蔵のマイクロフィルムをもとにこなったが、写真が黒かったり、地の部分が写り込んで、字の判別が難しい場合や、ゴミがあつて字の見えにくい場合には、字に影響のない程度に背景の処理をおこなった。

四、本文の翻刻に際しては、影印と対応できるように、可能な限り上下段の比較ができるように、影印の文書にあわせて、改行をおこなった。

以下、翻刻については、編集上の都合により次のようなことに配慮した。

1 旧漢字は原則として新漢字に直し、原史料にはないが、読点を付した。

2 変体仮名「ㇿ」「ノ」は、そのままの形で残し、「者」「江」「而」「二」「ハ」「茂」「与」の文字は、他と区別するためにポイントをおとした。また、それ以外の変体仮名については、原則として平仮名に直した。

阿↓あ、楚↓そ、幾↓き…等

3 「里」「筑」は、「里之子」「筑登之」と直した。

4 ペン字書の後世の書き込みがあるが、翻刻はしなかった。

5 朱書き等の補筆は、原則として文章中の該当箇所に入れ込んだ。また、朱書きによる訂正は、朱書きの文を優先した。ただし、翻刻中に、朱書き該当部分の指示はしていない。

6 日記の中で、書きもらしとして後日に補った文は、原則としてそのままにしてあるが、行間の朱書きの文に関しては、該当日付のところに入れ込んだ。

7 原史料の損欠および虫損は□で示した。

8 解読不能の文字は□で示し、推定しうる文字については、()で、明らかな間違いと思われる場合には、(ママ)と傍記した。

9 編集者の注記は、最小限におさえたが、注記する場合には()で示した。

10 その他、目次や柱題など、編集上の都合で処理したのものもある。

五、筆耕の際に、豊見山和行氏および沖縄歴史研究会古文書研究会にての筆耕を参考資料として使用させていただいた。

六、本書への収録に関して、協力していただいた沖縄県立図書館および川平家の皆様、ほか関係各位に記して謝意を表したい。